

令和3年度 海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業

「真珠養殖業におけるROVを活用した海洋環境調査の有効性実証」

活用する海の次世代モビリティ:ROV

2022年3月9日
株式会社NTTドコモ

1. 実証の背景と目的

課題1

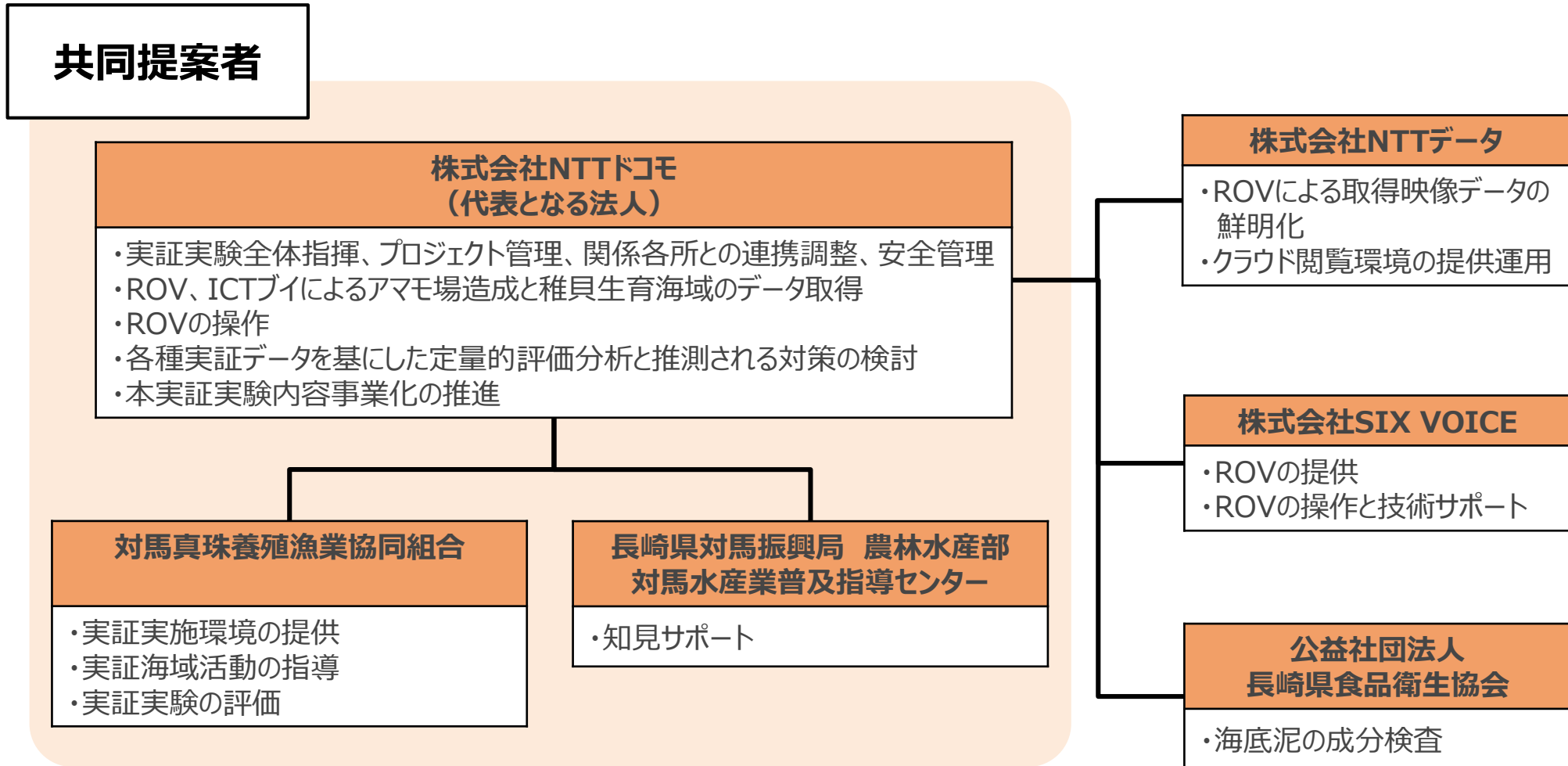
アマモ場造成による
漁場改善が
求められている

課題2

アコヤ貝稚貝大量
へい死の原因が
解明されていない

ROVを活用した海中状況の可視化で
課題解決に貢献する

2. 実証実施体制



3. 使用機材、実証実施地域

【使用ROV】



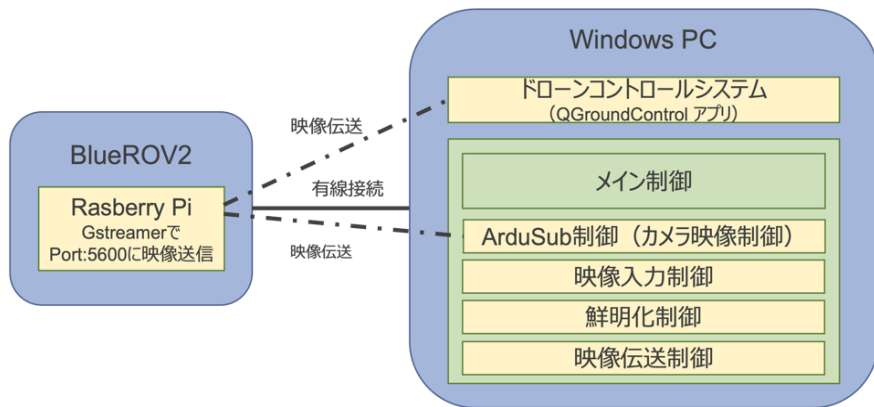
BlueROV2



FIFISH V6 PLUS

【画像鮮明化技術】

BlueROV2映像をソフトウェアで画像鮮明化



【実証実施地域】

あそ

長崎県対馬市浅茅湾

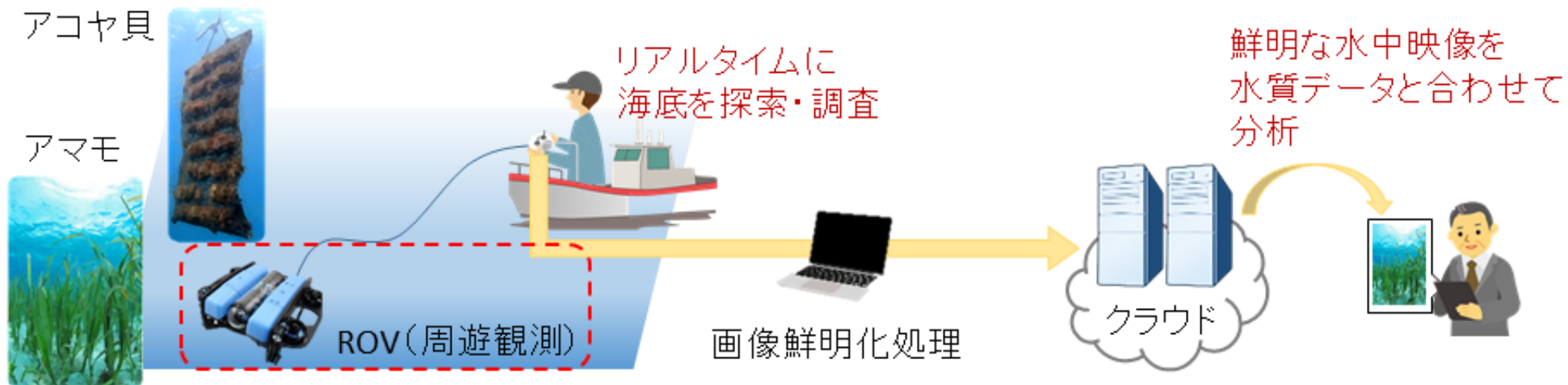


長崎県対馬浅茅湾：実証実験水域

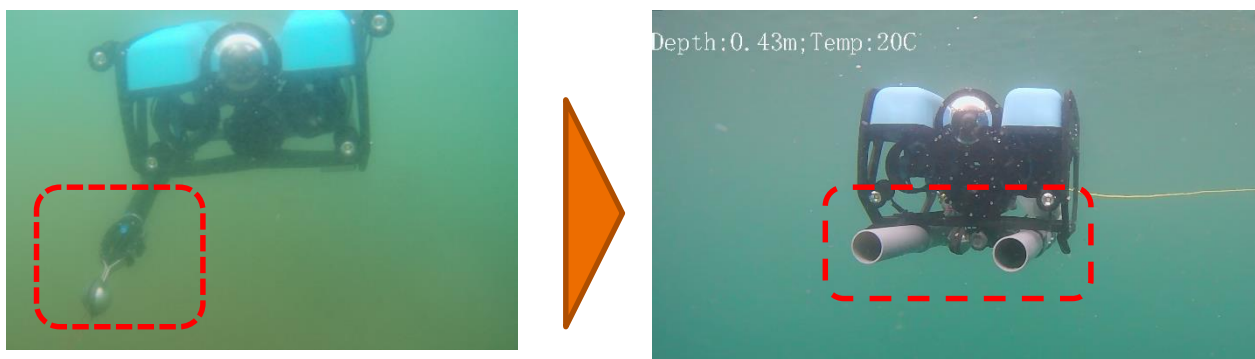


4. 実験手順

①映像撮影、画像鮮明化処理



②海底泥採取



③水質測定



5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：海底映像1）

貝口 11月撮影

Depth: 4.26m; Temp: 19C

砂状であり、適してないと判断

FIFISH

2021-11-16 14:38:18

5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：海底映像2）

佐保 9月撮影

Depth:2.34m

適したシルト粘度の底質と判断

FIFISH

2021-09-29 09:45:56

5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：海底映像3）

佐保 1月撮影



5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：海底泥採取映像1）

仁位（ハサミ型） 9月撮影

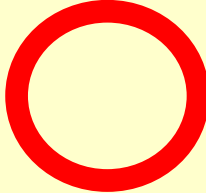
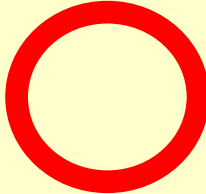


5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：海底泥採取映像2）

貝口（双筒型） 11月撮影



5. 実験成果（アマモ場造成による漁場改善：アタッチメント比較）

	第1回実証(9月)	第2回実証(11月)
形状	ハサミ型	双筒型
底質分析数 (4項目中)	3項目	 4項目
採泥量 (1回)	50～60g	 150～200g

5. 実験成果（アコヤ貝稚貝大量へい死原因解明への貢献：海中映像1）

鐘掛 9月撮影



5. 実験成果（アコヤ貝稚貝大量へい死原因解明への貢献：海中映像2）

佐志賀 11月撮影



5. 実験成果（アコヤ貝稚貝大量へい死原因解明への貢献：海中映像3）

佐志賀 9月撮影

Depth:5.67m

水深10m下で多くのプランクトンを確認

FIFISH

2021-09-30 10:35:08

5. 実験成果 (アコヤ貝稚貝大量へい死原因解明への貢献)

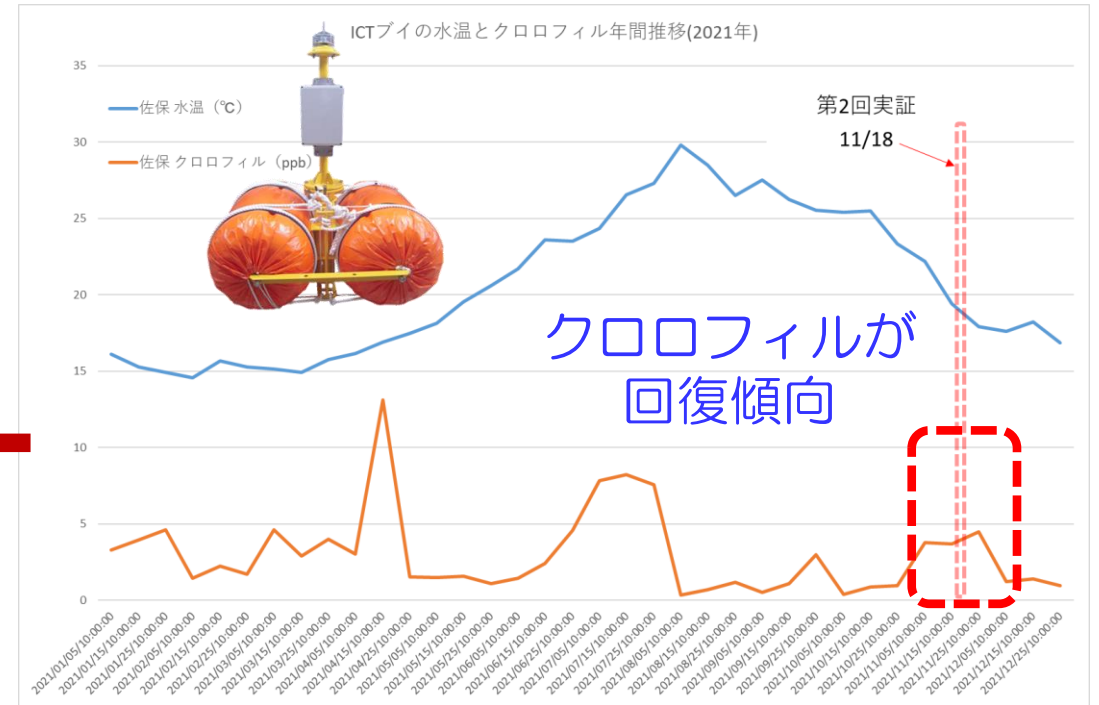


表層と海底の水温が
ほぼ変わっていない

操作者	使用ツール	深さ	位置	水温	酸素濃度	pH		
				°C	mg/L	pH		
地点	佐志賀	ドコモ	FIFISH	2.5m	網上段	20.0	6.73	6.18
		ドコモ	FIFISH	3.0m	網下段	20.0	6.77	6.17
		ドコモ	FIFISH	24.9m	海底	19.0	6.80	6.08

◆アコヤ貝ポイント2		操作者	使用ツール	深さ	位置	水温	酸素濃度	pH
						°C	mg/L	pH
地点	鐘掛	ドコモ	FIFISH	2.5m	網上段	20.0	7.18	8.01
		ドコモ	FIFISH	3.5m	網下段	20.0	7.19	8.76
		ドコモ	FIFISH	29.3m	海底	19.0	7.17	8.01

ROV測定鉛直水質データ (FIFISHv6PLUS)



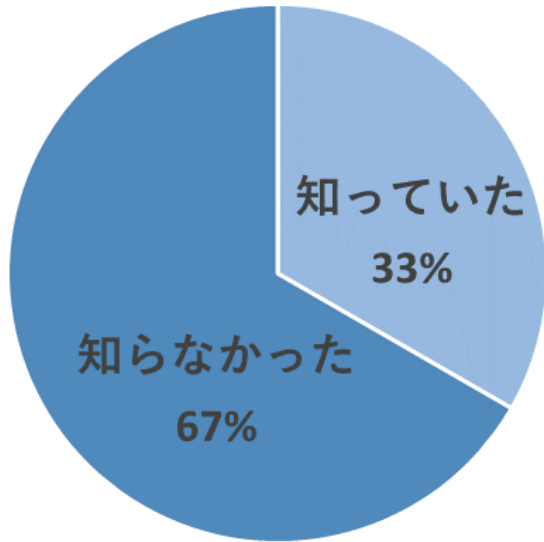
ICTブイ測定水質データ

アコヤ貝の生育に**好影響**の**鉛直混合**であると判断

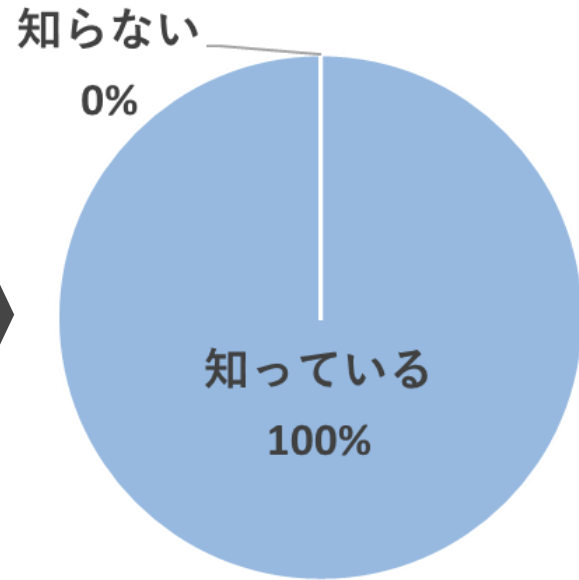
6. ROV技術の認知度と理解度

認知度アンケート

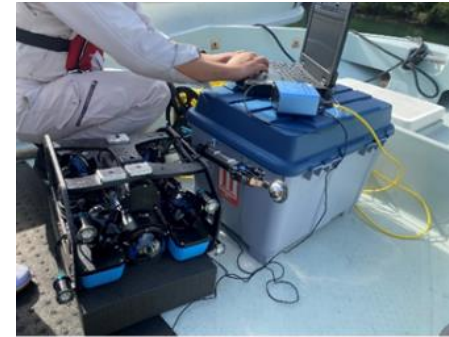
実証実験前



実証実験後



認知度100%



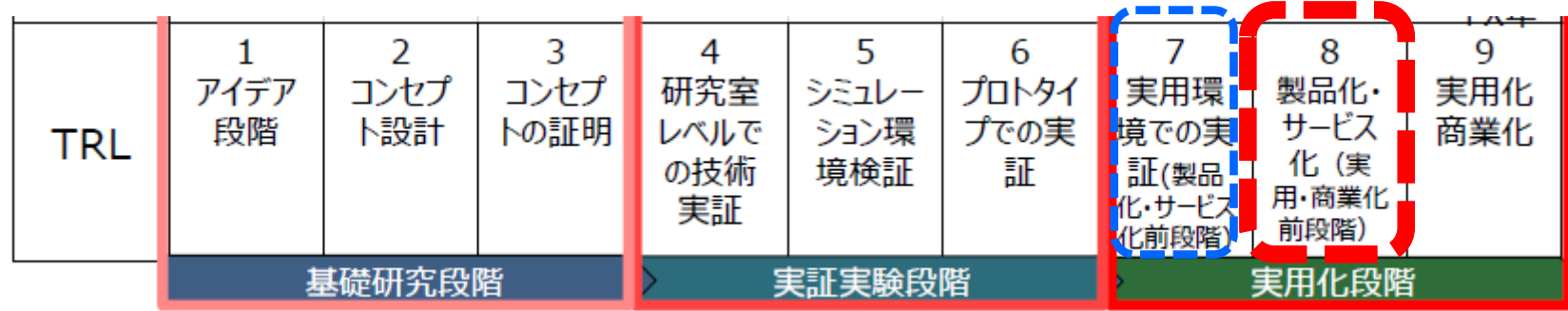
BlueROVの操作



FIFISHの操作

**操作やメンテナンスの
容易さに高い評価！**

7. 社会実装へ向けた道筋、実証実験前後の技術成熟度（TRL）



実証実験前

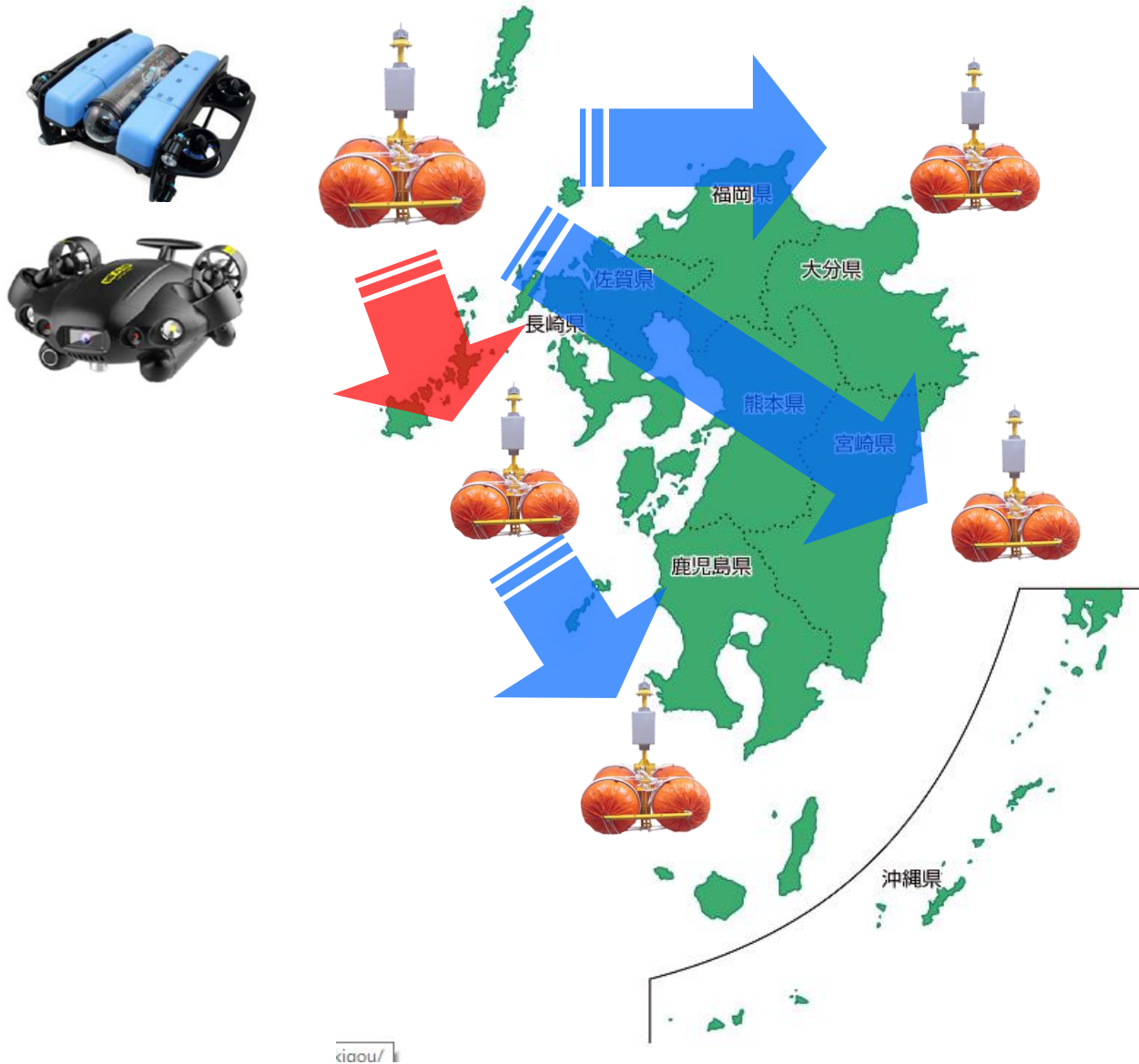
TRL7

実証実験後

TRL8

- 真珠養殖に活用できる海中可視化
- 泥質検査必要量の海底泥採取

8. 今後へ向けて



- 取組継続
- 長崎県でイベント
- ICTバイ活用

事業化
他地域展開

9. 最後に

